（２）遅刻の指導に生かす

遅刻する児童生徒には，さまざまな実態がある。家庭の夜型の生活スタイルやテレビの長時間視聴などから，生活リズムが崩れ，朝起きることができないという児童生徒，「学校がおもしろくない」「勉強がわからない」「仲のよい友だちがいない」など学校自体に魅力を感じることができず，登校がおっくうになる児童生徒，生活環境が不安定であったり，交友関係の乱れなどから，怠惰傾向が見られる児童生徒もいる。また，残念ながら，「いじめられる」ことも要因の一つであろう。さらに，それらが心的な要因となって，体の変調をきたしている児童生徒もいる。このように，個々の実態があり，理由があるため，児童生徒一人一人に適した指導を行う必要がある。

指導に当たっては，実態を具体的に把握し，傾向や課題を明らかにしていくことから始め，学校での指導，家庭との緊密な連携をとるという対応をしてきた。個別指導においては，教師との信頼関係を築くことが大切である。学級においても，お互いに声を掛け合える集団に高め，一緒に登校するなど，かかわりを深めるよう指導したり，児童・生徒会活動や学級活動などでは，時間を守ることの大切さを話し合い，「遅刻０（ゼロ）運動」や朝校門に立って活動するなど，時間を守り，主体的に遅刻をなくすよう取り組むことを指導したりしている。これらの指導効果をあげる前提としては，まず，学級や学校の土壌づくりが必要であり，さらに指導場面を学級・学校全体に広げ，児童生徒一人一人の心を耕していくことが大切である。（『生徒指導のてびき』P.54 参照）

また，道徳の時間においても工夫が必要である。例えば，遅刻については，時間を守ることの大切さや有意義な使い方について考え，生活を振り返ったり，自分の日々の生活習慣について見直したりすることで，生活のリズムを身に付けさせたい。また，日常生活の中で自分の目標や楽しみを見つけ，学校へ行きたい，学校が楽しい，友だちと会いたいなど生活意欲が湧くようにする。そして，希望をもつことの大切さや挫折感を克服する人間の強さを指導していきたい。一方，時間を守らないことは，他者に迷惑をかけていることはもちろん，自分にも大きな損失があることに気付かせていく。また，人に迷惑をかけていることに気付いてない児童生徒には，自分だけの問題ではないことに気付かせたい。集団生活をする上で約束やきまりを守り，自分に課せられた義務を果たすことが，他人の権利を尊重し，自分の権利も主張できることに気付かせる。また，自分がしたいようにするのが自由ではなく，本当の自由とは，自分の責任を踏まえた規律ある行動であることを指導する。他にも，社会に出た時の厳しさややりがいなどをゲストティーチャー（地域の方や保護者）に話してもらい，その人の生き方を知り，自分の生き方についても考えるきっかけとなるようにするなど，道徳の時間の中で押し付けるのではなく心に響くような指導をし，自分に自信を持つことができ，自分を大切にし，　他の人も大切にすることができる児童生徒を育てていきたい。同時に，家庭・地域にも呼びかけて授業にも参加してもらい，ともに児童生徒を育てていく気運を高めていきたい。

参考　「生徒指導のてびき」P５４より

【Ｑ１】遅刻などの指導はどうすればよいですか。

【A】

次のような指導を行います。

①　集団において時間を守ることの大切さや，それが家庭における基本的な生活規律の上に成り立っていることを理解させて，家庭と緊密な連携をとって指導します。

②　児童生徒の実態を細かく把握し，傾向や課題を明らかにします。年・学期・月・週などの具体的な目標を設定して，学校全体や学年や学級（ホームルーム）活動で取り組みます。

③　学級（ホームルーム）活動や委員会などで植物を育てたり，行事の練習を組んだり，ボランティア活動をしたりして，始業前に登校し余裕をもって臨めば気持ち良く楽しく学校生活を送ることができることを経験させ習慣化させます。

④　遅刻の多い児童生徒には，個人ノートなどに一日の生活を記入させるなど，自分の生活を振り返らせ，遅刻の原因を明らかにさせて，児童生徒自身で改善策を考え実行できるよう支援し，日常生活を計画的に設計するための習慣を身につけさせます。

⑤　児童（生徒）会活動や学級（ホームルーム）活動などで，遅刻の問題点や遅刻のない学校のすばらしさを考えさせ，遅刻ゼロ運動をするなど，児童生徒が自主的に遅刻をなくすよう取り組むことを指導します。